

大学共同利用機関法人自然科学研究機構
経営協議会（第84回）
議 事 要 旨

1. 日 時 令和7年3月27日（木）11時00分～14時30分

2. 場 所 自然科学研究機構事務局会議室・オンライン会議

3. 出席者 川合議長、石原委員、長我部委員、篠田委員、隅田委員、
滝委員、田島委員、中釜委員、中西委員、長谷川委員、結城委員、
井本委員、古屋委員、岡本委員、高柳委員、土居委員、吉田（善）委員、
阿形委員、鍋倉委員、渡辺委員
（陪席者）
小川監事、植草監事、田村アストロバイオロジーセンター長、
根本生命創成探究センター長
（事務担当者）
事務局 勝又総務課長、後藤人事労務課長、福市財務課長、
藤井研究協力課長、宮内施設・資産マネジメント室長、
国立天文台 藤田事務部長、核融合科学研究所 飯野管理部長、
岡崎統合事務センター 成瀬事務センター長 他

4. 配付資料

経営協議会委員名簿

- 1－1 経営協議会（第82回）議事要旨（案）
- 1－2 経営協議会（第83回）議事要旨（案）
- 2 令和7年度自然科学研究機構予算（案）について
- 3 資金管理方針の一部改正及び余裕金運用管理細則の制定について（案）
- 4 自然科学研究機構理事名簿
- 5－1 令和5年度自己点検・自己評価、外部評価について（国立天文台）
- 5－2 令和5年度自己点検・自己評価、外部評価について（核融合科学研究所）
- 5－3 令和5年度自己点検・自己評価、外部評価について（基礎生物学研究所）
- 5－4 令和5年度自己点検・自己評価、外部評価について（生理学研究所）
- 5－5 令和5年度自己点検・自己評価、外部評価について（分子科学研究所）
- 5－6 令和5年度自己点検・自己評価、外部評価について（アストロバイオロジーセンター）
- 5－7 令和5年度自己点検・自己評価、外部評価について（生命創成探究センター）
- 6 研究発表資料
- 7 各機関の今後の方向性及び令和8年度概算要求について
- 8 令和7年度経営協議会及び教育研究評議会開催日程

5. 議 事 等

議事に先立ち、事務局から定足数に達している旨の報告があった。

1) 議事要旨の確認について

前々回及び前回経営協議会（第82回及び第83回）の議事要旨（案）（資料1-1及び資料1-2）を承認した。

《審議事項》

2) 令和7年度自然科学研究機構予算（案）について

岡本委員から、資料2に基づき、令和7年度自然科学研究機構予算（案）について説明があり、審議の結果、案（資料2）のとおり了承した。

（意見交換の内容は以下のとおり）

（○は各委員等からの質問・意見、➡は各委員等からの質問に対する回答）

○ 「実績に基づく配分」の実績とは何を示すのか。

➡ 予算獲得実績である。これには運営費交付金や民間など外部からの資金も含めている。各研究所の予算獲得に向けた努力を評価するには収入から判断するのが妥当と考え、それを予算配分の考えのベースとした。

3) 資金管理方針の一部改正及び余裕金運用管理細則の制定について（案）

岡本委員から、資料3に基づき、資金管理方針の一部改正及び余裕金運用管理細則の制定について説明があり、審議の結果、案（資料3）のとおり了承した。

（意見交換の内容は以下のとおり）

（○は各委員等からの質問・意見、➡は各委員等からの質問に対する回答）

○ 各研究所の資金運用の自由度を高めるだけではなく、資金そのものを増やす取組を考えてほしい。

➡ おっしゃるとおりである。国の税収は増加しているにもかかわらず、それに見合う予算措置がなされないことについては、第7期科学技術・イノベーション基本計画の議論に考慮されると考えている。

➡ 当機構の知名度を上げることが寄附金を集めることにつながると考えているため、様々な場所で講演会を開催するなどの取組を行っている。

《報告事項》

4) 理事の任命について

川合議長から、資料4に基づき、理事の任命について報告があった。

5) 令和5年度自己点検・自己評価、外部評価について

土居委員、吉田（善）委員、阿形委員、鍋倉委員、渡辺委員、田村アストロバイオロジーセンター長及び根本生命創成探究センター長から、資料5-1から資料5-7に基づき、令和5年度自己点検・自己評価、外部評価について報告があった。

(意見交換の内容は以下のとおり)

(○は各評議員等からの質問・意見、➡は各評議員等からの質問に対する回答)

○ 毎年、外部評価を行っているその努力に敬意を表したい。

これは各機関が自主的に毎年行っているのか、それとも機構が指示しているのか。

➡ 自主的であり、規程などは設けていない。

➡ 各機関が毎年、評価を行うことによる負担について、懸念いただいているかと思うが、研究所ごとに評価の性質に応じて工夫し、実施しているため、今のところ大きな負担ではない。あえて申し上げるとすれば、研究の内容を理解していただける評価委員を探し、依頼をする点には苦勞をしている。

○ 外部評価を行う目的を教えてください。

➡ 自分たちの弱みに対して助言をいただくことである。

また、大型プロジェクトを推進する際に、ロードマップ等にて提案をする場合は、①コミュニティの広い意見を取り入れていること、②学際的な分野の位置づけが明確であること、が申請において求められることがあり、外部評価はこれに合致するという面もある。

➡ 評価をいただくことが目的ではなく、いただいた評価を運営に活かすことが目的である。

➡ 加えて、外部評価委員に対する広報的な効果も見込まれる。評価において研究設備の説明を行うと、そこから外部委員の企業との研究協力に発展することもある。

○ それでもやはり、外部評価を毎年行うことは大変なご苦勞かと思われるため、削減できるところは削減していただきたい。

➡ ご指摘の点について、引き続き対応を進めていく。

《その他》

6) 機構の最近の研究について

本機構の最近の研究成果について、核融合科学研究所の小林 達哉 准教授から、資料6に基づき、「核融合プラズマにおける非線形創発現象の実験研究」と題して発表が行われ、意見交換を行った。

7) 各機関の今後の方向性及び令和8年度概算要求について

各機関の委員及び各センター長から、資料7に基づき、令和7年度予算を踏まえた各機関及びセンターの今後の方向性及び令和8年度の概算要求に向けた検討状況などについて説明があり、意見交換を行った。

(意見交換の内容は以下のとおり)

(○は各評議員等からの質問・意見、➡は各評議員等からの質問に対する回答)

○ 固有のセンターを通じて、各研究所間で相乗効果を生みながら新たな研究領域を開拓していく活動は非常に価値があり、今後も続けていただきたい。なお、今回説明いただいた内容は各研究所が各々に設備を要求しているように聞こえ、概算要求としては説得力のないものに見えてしまった。これは今後、統一感と説得力をもつ資料に仕上がっていくものなのか。

- ➡ 今回説明をしたものは各機関からの実施リストであり、概算要求までの途中段階をお見せしているものである。ご指摘いただいた点を含めて、納得いただけるような資料作成を進めていく。
- UVSOR という名前を引き継ぐ意味について教えていただきたい。UVSOR-IVは従来の設備と異なる機能をもつはずだが、名前からは判断ができず、むしろ従来の延長線上に見えてしまう。これをメリットと考える理由は何か。
- ➡ おっしゃるとおり、UVSOR-IVは従来のものと異なる仕様をもつため、名前の変更は検討されるべきなのかもしれない。しかし、分子科学研究所が50周年を迎えるにあたり、UVSOR シリーズが様々な研究の基礎として活躍してきた歴史をアピールするには UVSOR の名前を引き継ぐメリットは大きいと考える。
- 実際に使用している研究者はその違いに気づくだろうが、広いコミュニティに向けたとき、そうなるとは限らない。アピール不足である気がするため、そこを頑張っていたるか名前の変更を検討いただきたい。
- ➡ ご示唆あるご意見、参考にさせていただく。

8) 令和7年度経営協議会及び教育研究評議会開催日程について

事務局から、資料8に基づき、令和7年度の会議開催日程について報告があった。

9) 退任所長からの挨拶

任期満了により所長を退任する吉田核融合科学研究所長、阿形基礎生物学研究所長、鍋倉生理学研究所長から退任の挨拶があった。

以上